

MUV—LUV—ALTERNATIVE  
—鋼鉄の狩人

暗黒の影

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

前作の内容が、誰かのに似ていた様なので書き直しました。

旧名：M U V | L U V | A L T E R N A T I V E | オブリビオン・ミラージュ改

強盗に人質にされた女の子を助ける死んでしまった高校3年の主人公。

だが、その死は、予期せぬ神のミスによって起きた死であった。

神は、主人公に転生と特典のチャンスを与えた。

しかし、与えられた転生場所は、死亡フラグ満載な『マブラヴ』

主人公は、生き延びる為にチート特典を貰って転生する。

注意：この小説は、作者の気まぐれと暇つぶして書いています。

そのため設定やらなんやらが、おかしい事がありますが、ご了承ください。

ご都合主義やら何やらがあります。

キャラのセリフが台本形式ですので、苦手な人は閲覧しない方をオススメします。

再注意：作者は、マブラヴ本編をプレイしたことはありません。トータルイクリプスをアニメで見て書きたくなった。にわかです。

その為、所々おかしな点があると思いますが、生暖かい目でご覧下さい。

マンガ版のマブラヴさえ途中です。

某エプリスタで書いていた物が大分前（3年前）に消されたので書こうかと・・・  
まあ・・・心を広くくひろく、持って読んでください。

# 目次

第00話プロローグ | 1

第00話「キャラ紹介」 | 8

第01話「ターミネーター」 | 13

スカイネット潜入 | 22

スカイネット潜入・回収・次の世界へ

27

新たな世界 レジスタンス | 32

新たな矛と盾 | 36

主人公機 | 44

マブラヴの世界へ | 48

マブラヴの世界へ2 | 53

マブラヴの世界へ3 | 58

コレからについて | 65

ソロモンの悪夢VSチート? (バグ?)

70

星の流れ・・・ | 82

強化MS資料 | 86

月ハイヴ付近へ | 92

ポイント収集 | 97

## 第00話プロローグ

——ここは……

——俺は、女の子を助けて……

——そうだ……俺は、死んだんだ……

『はい。アナタは死にました』

——誰だ!?

女神『アナタ方が言う神です。まあ、私の場合は、女神ですけど』

——女神……死……真っ白な空間……

——そうか……コレは、俗に言う転生空間か……

女神『その通りです。にしても、冷静ですね。大抵は騒いだり、大喜びしたり、混乱するのが当たり前だと思うんですが……』

——コレでも、驚いているけどな。

女神『そうなんですか? まあ、冷静なら話をしますね?』

——ああ

女神『アナタは、強盗に入り逃亡中だった男性が近くにいた親子から女の子を攫い人質になったが、偶然居合わせたキミが男性を気絶させて女の子を救出』

———そうだったな。

確かに偶然学校の帰りだった時に居合わせて、後ろからなるべく音を立てない様に近づいて気絶させたんだっけ？

女神『気絶させた男性は、警官に取り押さえられキミは、女の子の親に感謝され、はたまた街の有名人になる』

———そうそう。だけど……

女神『ですが、警察に取り押さえられていた男性が警察を払い除け警察が奪い取った包丁を奪い返し女の子に投擲した』

女神『それを見た親が女の子の盾になるが、キミは、その親の前に立ち包丁が親に届かない様にした』

女神『その結果、キミは運悪く心臓に包丁が刺さり、血液が心臓に入り活動を停止し死んでしまった』

———そうだったな……あの犯人はどうなった？

女神『あの犯人でしたら、キミを殺す前から、強盗八件・強姦二件・殺害一三件と重犯罪者だったから、即死刑だって裁判で決まったよ』

——そうか。女の子と親は？

女神『キミに感謝していたよ。キミの親に何回も謝っていたしね』

——そっか……

女神『それじゃあ、本題に入ろっか。わかっていると思うけど、キミが死んでしまったのは、私の部下がミスしたからなんだ』

——そうか…で、やっぱり転生できるんだろ？

女神『ええ。そうよ。転生できるわ』

——場所は？

女神『マブラヴオルタネイティヴよ』

——……マジかよ…

女神『大丈夫よ。ちゃんと特典もあげるから』

——……はあ、死んだ身だ。生き返れるんだったら運命に従うか…

女神『あら、諦めが早い事で』

——我が儘を言えば、魂ごと消し去られそうだしな。受け入れるしかないだろ？

女神『まあ、受け入れなかったら輪廻転生してもらっただけだしね』

——やっぱりな。それだったら、こっちを選ぶな

女神『そう。なら早速、特典を決めましょう』

—— そうだな。それじゃあ……

数十分後

—— コレでいいだろう

女神『OKですね。じゃあ、確認しますよ?』

—— ああ

女神『まず1つ目は、スーパーコーデイナーを越える頭脳に身体能力で体がメタルギアソリッドライジングの雷電が装着していた黒い特殊作戦用義体と同じ最新最高スペックを誇る義体?』

—— いや、正確に言うくと雷電の装着していた黒の特殊作戦用義体を常時着ているパワードスーツにして欲しいんだ。

女神『脱げるようにする?』

—— そうだな。脱げる様にして欲しいな。

女神『分かったわ。脱げる様にしとくわ』

—— 助かる

女神『それじゃあ、2つ目は、ガンダム技術にマクロスの技術を使えるように?』

—— ああ、実際あつちの戦術機は脆いし柔いから、ガンダムやマクロスの技術を



使いたいんだ

女神『分かったわ。使えるようにしとくわ』

—— ああ。助かる

女神『さて、3つ目は、専用機が欲しい?』

—— ああ、俺が考えた専用機を作って欲しいんだ。

女神『ちよつと待ってね。データから見てみるわ……………コレね。えくと名前がガンダムアマツマガツチ?……………!!何なのこのモンスター機は!!』

多分驚いているのは、俺の機体のスペックを見たからだと思うな。

だってねえ、通常のスピードでトールギスの最大出力のスピードだし、俊敏性もトールギス以上だしな。

因みに劇中でトールギスが出したスピードは、20%にも満たないんだぜ?

つまり、最大出力のスピードトールギス100%のスピードである。

それにパワーや防御力も桁外れ（比べる物が無い為、桁にすらならない）だからかな

?

—— どうだ?

女神『どうだ?じゃないわよ!?!こんな機体に乗ったらアナタ死ぬわよ!?!』

—— そのための特典だが?

女神『はあ…分かったわ。作って見るわ。でも出来上がるまでに時間が掛かるわ』

——その為の4つ目の願いだ。

女神『はあ、もう分かったわ。なら、機体が出来上がるまで4つ目の異世界への修行と観光を許可するわ』

——ふうう。良かった。ダメって言うかと思つてたかな

女神『元は、私の部下のミスだからね。コレくらい許さないとね』

——ありがたいね。それじゃあ、色々な世界に行ける様にしてくれるか？

女神『OKよ』

——それは、ありがたい

女神『終わり？』

——最後に三大能力が欲しい。

女神『三大能力？』

——ああ、超高度なハッキングと接触同化能力・接触物改造能力・4次元収納能力を頼む

女神『具体的には？』

——ハッキングはその名の通り、システム・通信・その他モロモロを簡単にハッキングできる能力、そして同化能力は、対象に接触し対象と同化する能力だ。だけど、こ

の2つは、その対象に触れないといけない。

女神『分かったわ。次の改造については？』

—— 接触物改造能力は、対象に接触し自身の思った様に改造ができる能力だな。

女神『了解よ。最後の4次元収納は？』

—— コレは、対象に触れなくても、発動できる能力で、対象の足元や目の前など、自由な場所に4次元空間を発生させ、対象を収納する能力だな。

女神『分かつわ。この3つね』

—— ああ、頼んだ

女神『そうね。それじゃあ、頑張つてね。行ってらっしゃい』

## 第00話「キャラ紹介」

名前：夜月 零（ヨヅキ レイ）

年齢：17歳

性別：男

容姿：銀髪に紅い瞳をしているイケメンさん「聖痕のクエイサーのサーシャだと思っ  
てくれ」

能力

1. スーパーコーディネーターを越える頭脳＋身体能力
2. MGS—RGでの特殊作戦用義体の完全コントロールとスーツ化※
3. 三大能力※

※三大能力

超高度ハッキング電子同化能力：神のおかげで、ダブルオーで出てくるヴェーダを  
ハッキング出来るレベル

4 次元空間収納能力：いろいろと収納できる。大型の軍事基地を丸事収納できる。

接触物改造能力：自分の思うがままに改造ができちゃうぞ☆・・・たぶん

※雷電の特殊作戦用義体のスーツ化

特殊作戦用義体は元々サイボーグが着る為の義体である物をスーツ化にさせた物であり、人工筋肉はスーツ化にさせた為、内蔵されていないと思うだろうが、

人工筋肉はスーツ表面にたった厚さ3cmで内蔵されており、この人工筋肉は強化と小型化がさせられており、その性能は雷電が着ていた特殊作戦用義体より高い

分 (例え) 雷電のが、高層ビル4階分まで跳躍できるのに対して、レイのは、高層ビル8階

跳躍性能に脚力性能もそうだが、コレは握力や筋力も同じである。

(例え) 雷電のが、厚さ3cmの鉄を捻り千切れるまで出来るのに対して、レイのは、厚さ6cmの鉄を捻り千切れる

そして、スーツの表面には、ガンダムSEEDとDESTINYで使用されているTP装甲とVPS装甲を合わせたVTPS装甲を使用している。

VTPS装甲は、TP装甲の二重構造で表面装甲に被弾時に相転移する考案とVPS装甲の電流量をリアルタイムで変化させて電力消費を抑える考案を使っている。

その為、実体兵器に対する防御力は最強と思われる。

スーツに消費する電力は、スーツ全体に施された特殊機能である太陽エネルギー増幅

システムによって得られるエネルギーを電力に変換し使用している。

このシステムは、太陽光をエネルギーにして、そのエネルギーを増幅させることで稼働するシステムであり、実質上では太陽の届く所であれば、無限に活動し続ける。

例えば太陽が無い場所でも蓄積された電力があり、稼働時間は120時間もある。

雷電の頭部顕かみ両側にあつたバイザーが鼻までの高さになっており、頬の両側にサムエルと同じマスクがある。

バイザーは、世界情報をワールドネットワークを通じて、その世界の情報や個人の情報を取得する事ができる。

マスクは、防毒効果があると同時に酸素呼吸器としての機能もあり、潜水や高高度による低酸素な場所の時に酸素ボンベと同じ様に使用できる。

バイザーとマスクを展開させて特殊作戦用義体スーツと合体させることで、密封のヘルメットとなる。つまり、ヘルメット付きのノーマルスーツとなる。

酸素呼吸ガスは、4日分まで入っている。

詳細

テンプレで転生した高校3年生。

元の世界では、ニートと化していたが、最低限の運動や行動などをしていた為、どこぞの引きヲタニート見たく太ってはいない。

元の世界では、色々と訳ありであつた。

主人公スベック「Gジェネ風」

通常

射撃値：40

格闘値：45

反応値：55

守備値：65

覚醒値：68

指揮値：48

魅力値：58

スーツ着用時

射撃値：95

格闘値：100

反応値：120

守備値：150

覚醒値：85

指揮値：65

魅力値：44

キヤラクターアビリティ

- ・超直感：覚醒系武装威力+1000
- ・一撃必殺：スーパークリティカル発生確率+25%
- ・スーパーカーディネーター：アビリティの効果+50%。特殊射撃武装ダメージ+10%

・空間認識能力：覚醒値+10%。覚醒系武装威力+300

・SEED：格闘・射撃・反応・守備値+5。超強気で覚醒値+20

・機敏：機動力+16

・ニュータイプ：覚醒値+20。覚醒系武装威力+1000

・  
・  
???????



## 第01話「ターミネーター」

俺が、目が覚めるとそこは、廃墟の街があった。

レイ「此処は…どこだ？」

戦争か何かがあったのか、廃墟と化している街を俺は、歩きながら観察する。

レイ「だけど、何故だろうか…」

この世界に凄く見覚えがあるな…

廃墟の街を歩いていると一人の人影を見付ける。

レイ「あ。すみ…」

見えた人影に俺は、直ぐに口を閉じた。

何故なら、自分の姿が雷電の特殊作戦用義体をスーツにした物だからだ。

外見から見たら俺の方が不審者だからだ。

俺は、見掛けた人に見つからない様にゆっくり近寄る。

レイ「おいおい。マジか…」

そこにいたのは、人間ではなく金属の骨格にテカリがある皮膚を付けて背中にデカイ

ランドセルを背負って手には、5連装の銃口が出ているガトリングガンを持った機械がいた。

レイ「ターミネーター……」

ターミネーター

スカイネットが作り上げた金属の骨格を持った機械の名称だ。

その力は、俺の着ている雷電のスーツには遠く及ばないが、充分人間を殺せる性能を持っている。

レイ「つて事は、この世界はターミネーターの世界か……」

ガラッ!!

俺が、自分がいる世界が分かると同時に足元にあつた瓦礫が崩れてしまった。

レイ「ヤバっ!!」

俺は、瓦礫が地面に落ちる前に握り取る。

レイ「ふう……」

ゆつくりとターミネーターがいる方を見ると……

T-600『ジイイー（―・―）』

此方を見詰めるターミネーターさん。

そんなターミネーターに目が合ってしまう俺……

取り敢えずだ：

レイ「ちつす（∥・ω・）ノ」

挨拶は欠かせないだろう？ 相手とコミュニケーションを取らないとね（∨、）

そう思った瞬間、ターミネーターは、手に持っていたガトリングガンを此方に向けてきた。

レイ「ですよー…」

俺が呟いた瞬間、ガトリングガンの引き金を引いた。

レイ「つち!!」

俺は、瞬時に足の強化型人工筋肉に電力を流し走る。

電力で強化された強化人工筋肉によって、放たれる鉛玉を全て避けきる。

瓦礫に隠れ頭を回転させる。

レイ「さてと、見付かっちゃったしな：確かT4の劇中では、パトロールしてるターミネーターに見付かったら、ハンターキラーが来てたっけ？」

レイ「（長引くと此方が不利か：何か無いか？）」

そう思い思考を巡らせる事5秒間、頭に思い浮かんだ策を実行する。

レイ「（それじゃあ、早めに解決しますか。）」

俺は、高周波ブレードを引き抜き瓦礫から身を出し一気にターミネーターに近づく。

ターミネーターは自分に向かってくる俺にガトリングガンが放ってくる。

俺は、バイザーとマスクを展開させ弾が来る場所に高周波ブレードを振り、弾丸を跳ね返す。

一気に近付いた俺は、高周波ブレードを握っていない左手でターミネーターの頭を掴みそのまま地面にぶつける。

こんなんじゃないあ、ターミネーターは機能を停止しない。

それは、百も承知している。俺がしようとしているのは……

レイ「ハッキングだよ!!!」

俺が行く世界は、元々化物がウジャウジャという世界なんだ。使える物は使わないとな。

こいつ等ターミネーターは元々戦う為に作られたんだったら、俺も使わせてもらおうか。

女神から貰った、超高度なハッキング接触同化能力。

コイツを使ってターミネーターの電子チップとスカイネットの束縛を上書きし俺の下僕に変える。

レイ「(ん?コレか…済まないな。スカイネット、コイツは俺が貰った)」

ターミネーターの中に見付けたスカイネットの支配と電子チップを完全ハッキング

する。

俺は、一旦T-600の上から降りる。

するとT-600は、体を起き上がらせ、周りを見始め俺を見つけるとガトリングガンを下ろした。

どうやら、成功したみたいだな。

レイ「T-600。お前は、今から俺の命令を聞け」

T-600『つコク』

無言で頷くT-600

レイ「この空域に元仲間を呼び寄せろ。そしたら、俺の能力の虚数空間に入っていて貰う」

T-600『つコク』

その言葉を聞き頷く。俺は、少し離れた瓦礫に同化する。

バルディエルの寄生浸蝕改造能力

この能力をターミネーターに使用すれば、改造できるがそれはしない。

理由か？ T-600は只の警備兵として使うからな、そんなに性能が高くなって良いと思う。

だから、改造はしない。

ゴオオオ!!

俺が考えていると空気を揺るがすジェット音が聞こえた。

音がする方向を見ると、大きな輸送機が此方に来ていた。

ハンターキラー エリアル

ターミネーターのOPで多く登場する。ハンターキラーシリーズの浮遊戦闘を行う垂直離陸可能型の飛行機タイプ。

非常に戦闘能力は高く、人類側の戦闘機や攻撃機に引けをとらない。

直径はA-10の約2倍程の大きさ、31m。

基本的には飛行タイプによる搜索殲滅が重視されている。

そんな大型機が地面に着陸した。

俺は、ハンターキラーに見つからない様にT-600を虚数空間に沈めて回収する。

それと同時に人間を収納する場所の中から、8体のT-800が姿を現した。

レイ「(丁度良い……)」

俺は、ゆっくりり地面に降り立ちT-800の足元に4次元収納空間を展開させ落とす。

T-800『!?!?』

T-800達は、いきなり起きた事に驚き、抗うが落ちていく。

ハンターキラール エリアルも直ぐに空中に逃げようとするが、俺が既に装甲に触れておりハッキングを開始する。

レイ「もうちよつと、周りの警戒をするんだな」

ハッキングされたハンターキラールは、一時停止し再起動した。

レイ「H・K・e（ハンターキラールエリアル）。お前は、今から俺の言う事を聞け」  
俺の言葉を理解したのか、赤色のモノアイが点滅する。

レイ「少しの間、収納空間に入っていてくれ」

俺は、H・K・eを4次元収納空間沈めると同時に先ほど沈めたT-800を順番ずつ出して行き、ハッキングしていく。

8体全機ハッキングが終わると同時に一体のT-800を残して全機を4次元収納空間に落とす。

レイ「一応聞くが、喋れるのか？」

T-800「ああ」

聞いた事のある玄田声の太い声で答えるT-800

レイ「なら、審判の日の日付と、今日の西暦何年の何月何日だ？」

T-800「審判の日は1997年8月29日…今日は2030年6月29日だ」

レイ「そうか…」

たしか、ターミネーター2で起きる筈だった審判の日は、1997年だった……  
T2の審判の日は阻止された……

と言う事は……この世界は、剥離された世界だな……

レイ「さてと、この世界が剥離されてるんだっつたら……」

俺は、考えをやめてT-800に向き直る。

レイ「お前たちは、どこの基地から此処に来た？」

T-800「ロサンゼルス近隣の軍事生産基地から来た」

レイ「そこへの行き道を教えてくれ」

T-800「此処から南に徒歩10分、車であれば、5分と掛からない」

レイ「そこにスカイネットは？」

T-800「スカイネットは、全世界に存在する。その一部である管理システムがある」

一部の管理システム……

レイ「分かった。お前も虚数空間で待機していてくれ」

そう言い俺はT-800を虚数空間に沈め待機させる。

さてと、徒歩10分か……

レイ「まあ、問題ないか……」



俺は、脚に電力を流し強化人工筋肉を大きくさせ脚力を上げる。

バイザーとマスクを展開させ、地面を蹴って走る。

ツダ!!

ツダダダダダ!!

強化された脚の裏からは、電力が地面に帯電していた。

## スカイネット潜入

ターミネーター生産基地兼開発研究所

配下にしたターミネーターの証言通り、直ぐにターミネーター生産基地を見付けた。

見付けたのは良いのだが、周辺警戒しているターミネーターが多い所為で此処に来るまでに警戒してるターミネーターを数十体捕獲したのだが、それでも減る様子がない。

一応、見付からずに内部に侵入できたが、夥しい数おびただしいのターミネーターが製造されていた。

レイ「こりゃあ、凄いな・・・」

俺は、近くにあるデータベースを弄ると製造されているターミネーターの一覧が現れた。

レイ「これはこれは、結構な種類のターミネーターを製造していることで・・・」

terminator—6000×65 (25)

terminator—800—type—101—1×1 (3)

terminator—850—type—305—2×75 (25)

terminator-7-type-spiderx58 (32)

motor-terminator-type-Fx125 (25)

これが、データベースに記されたターミネーター

因みに○の中の数は、製造中の数だ。

それを考えると、やはり数が多いな・・・

レイ「そう言えば、製造されたターミネーターは、どこにいるんだ？」

俺は、データベースを弄り製造されたターミネーターが置かれている場所を探す。

レイ「つお？コレか。へ〜製造されたターミネーターは全部地下に置かれるのか・・・」

俺は、データベースの情報をバイザーにリンクさせナビをさせる。

コレによって、バイザーを通して目視でナビルートが表示される。

レイ「さてと、このナビに従って・・・っ!？」

俺が、バイザーのナビに従って地下に向かおうとした瞬間、一体のターミネーターが此方に向かってきていた。

レイ「(周辺警備のターミネーターか・・・)」

俺は、バイザーのオーグメントモードで敵をスキャンし確認をすると、この工場を警備しているターミネーターの1体だった。

レイ「冷静に分析してる場合じゃなかった・・・」

俺は、近くの金属の壁に同化し姿を消しターミネーターが来るのを待つ。

何故、ターミネーターが来るのを待つかわかるでしょう？

ただ単に、ターミネーターの機種がT-850だったから、欲しかっただけだ（・ω・）  
（キリッ）

壁に接触同化を使用しながら、T-850が所持している武器を分析する。

所有武装は、ショートバレル式フェイズドプラズマライフルが2丁か・・・

レイ「（取り回しを良くする為にバレルを短くしたのか・・・）」

そのの所為で射程が、250mになっている様だが、十分じゃないか？

抵抗軍からしたら、十分な脅威になるしな・・・

鋼鉄の装甲に威力の高いプラズマライフル・・・

それに、数百もの数だしな・・・

俺が、武器の分析をしていると、ターミネーターが此方に来た。

レイ「（データベースに気付いて欲しいな・・・）」

ターミネーターは些細な事でも見逃さないからな。俺が弄りつばなしにしたデータベースに気付くと思うのだが・・・

キュイーン・・・

T-850がデータベースに近付き始めた。

どうやら、弄られている事に気づいた様だ。

レイ「(よつと・・・忍び足で近付かないとな・・・)」

俺は、ゆっくりと同化を解き地面に降り立ちデータベースに近付くターミネーターの後ろに近寄る。

ターミネーターがデータベースの前で止まった。

多分、分析しているんだと思うな。

レイ「(なら・・・チャンス!!)」

俺は、バレない様に忍び寄り、ターミネーターの頭部に触れ、瞬時にハッキングをすると同時にターミネーターと同化する。

レイ(T)「よし。何とか、乗り移る事ができたな」

俺は、ターミネーターと同化しナビに従い地下に向かう。

因みに乗り移った意味は、只のカモフラージュの為だ。

ナビに従って、進んでいくと地下に向かうエレベーターを見付けた。

エレベーターの大きさは、軽くT-600が10体位入れるくらい大きい。

レイ「コレに乗るのか」

俺は、エレベーターに乗り込みスイッチを押す。

ツガタン!!

スイッチを押した事で、エレベーターが動き出し、目的の場所に向かった。

## スカイネット潜入・回収・次の世界へ

ウィーン・・・ガシャンッ!!

どうやら、目的の地下に着いたみたいだな。

俺は、開いた扉からエレベーターを出てナビに従って進む。

途中、他のターミネーターに会うかと思っていたが、このフロアには、いないのか今の所誰にも会っていない。

暫く、ナビに従って進んでいくと大きな鋼鉄製の扉の前に着いた。

レイ(T)「此処か・・・」

俺は、扉の前に行きボタンを押そうとするが、ボタンらしき物がなくその代わりに網膜センサーらしき装置が設置されていた。

レイ(T)「コレって・・・」

確かこの網膜センサーって、T4でも出たターミネーター用の認証装置だったけ？

レイ(T)「試してみますか」

俺は、網膜センサーに近付き目をスキャンさせる。

p p p p p . . . . ガシャンツ!! ウイイイン . . .

開かなかつたら、同化して侵入するつもりだったんだが、無事に開いたか。

俺が開いた扉をくぐり抜けると消えていた電気が全てつく。

レイ(T)「つうお」

いきなりついた光にビックリするが、一番ビックリしたのは、ビツシリと整列しているターミネーターの軍団がそこにいた事だ。

レイ(T)「こんなにいるのか . . .」

その数、純粋に種類を区別しなければ、500体は、いる。

俺は、整列しているターミネーターに圧巻しながら、近くにある操作ボードを弄る。

と言っても、操作ボードには、また網膜スキャンをするだけなのだが。

先ほどの扉と同じ様に網膜 . . . カメラスキャンか？

まあ、どっちでも良いか。

俺はカメラスキャンに自身の眼となるカメラをスキャンさせる。

すると、真つ赤な視点の前にターミネーターの機種が一覧として表示された。

レイ(T)「うわあ . . . 別の場所にモトターミネーターやH・K・eとH・K・tも

置かれているのか . . .」

第01〜03にターミネーター用の収納格納庫があるらしく、俺が居るこの格納庫は



第01人型ターミネーター用の収納格納庫みたいだ。

第02は、タンク・バイク型ターミネーター用の格納庫みたいだな。主にモトターミネーターやH・K・tなどが置かれている。

第03は、大型ターミネーター用の格納庫だ。主にトランスポートやハーヴェスターなどが置かれている。

レイ(T)「まず、同化を解除して……」

俺は、同化を解きT-850と離れると同時に能力の4次元空間収納を使いビッシリと整理しているT-600を収納していく。

レイ「さてさて、この調子で……」

T-600の収納が終わり、T-800を収納しようとした瞬間、俺は宙に浮いた。

レイ「え？」

俺がいた場所を見ると金属の骨格をした人型の大きなロボットがいた。

ドゴンツ!!

それを目で確認すると同時に金属の壁に着地する。

レイ「T-600か。まさか、稼働してるのがあるとは、予想外だな」

そう呟きながら俺は、着地した壁から降りる。

俺が、地面に降りると早歩きで此方に来るターミネーター。

俺はその場から動かず、背中の電磁靴を腰の位置に持つてくる。

近付いて来ているターミネーターは、拳を振り下ろそうとしている。

レイ「残念でした。また来週〜」

ターミネーターが拳を振り下ろすと同時に、がら空きの懐に入り込む。

俺は、腰の鞘から一気に高周波ブレードを引き抜き、斬れ味が高い高周波ブレードでターミネーターの胴体を切り落とす。

レイ「まだまだ」

俺は、そのまま電力を流しライジングであった斬奪モードを起動させる。

このモードでは、斬れ易い・または弱点などを電力で強化した高周波ブレードと人工筋肉で高速で斬ると言うモノだ。

そのモードを起動させ俺は、ターミネーターの体を上下左右斜めと切り裂いていった。

バラバラに切り裂かれたT-600は、金属の藻屑と化し地面に落ちた。

レイ「それじゃあ、収納を再開しますかな」

俺は、切り裂いたバラバラになったターミネーターをそのままにして収納を再開する。

レイ「改修完了つと」

さてと、収納目的を収納した為、此処から去りますかな。

収納したターミネーターは人型ターミネーターだけで500体を越えている。

バイク型が550体越え、H・K（ハンターキラー）タイプは200機越えである。

レイ「さて、戦力回収完了したし、次の世界に行きますか」

と言つても、一旦神界に帰還するんだがな。

俺一人じゃあ、移動できないしね。

## 新たな世界 レジスタンス

神界

女神『あら、お帰りなさい。どうだった？』

目を開けると目の前に女神がいた。

レイ「ああ、楽しかった。それに戦力の回収できたしな」

女神『そう。なら次の世界に向かわせるわよ？』

レイ「了解だ。次はどの世界だ？」

女神『キメラウイルスと言うウイルスによって、世界が危機に迫っている世界よ』

レイ「了解だ。その世界では、武器の回収でもするかな」

ターミネーターの世界でもフェイズドプラズマライフルやミニガンにグレネードランチャーなどを手に入れたが、それ以外にも欲しいしな。

女神『じゃあ、行ってらっしゃい』

俺は、また意識を失った。

レジスタンス

ダダダダダダ!!

シユン!!シユン!!シユン!!シユン!!

キユイインダダダダダダ!!

ススメエエ!!ウテエエ!!ギャアア!!ソコダア!!キタゾオオ!!

レイ「いつつ・・・てか五月蠅いな・・・」

目が覚めると、戦場のど真ん中で目が覚めた。

レイ「コレは、早速アレだな」

武器回収ができる!!

俺は、人間側に行かず、キメラ陣営にステルス迷彩を起動させ向かう。

少し進むと、ブルズアイとオーガーを握ったハイブリットが人間と戦っている場所に着いた。

レイ「悪いが、その武装貰い受ける」

俺は、人間に向かってエネルギー弾を放っているハイブリットを連続で背中から頭を切り落としていく。

頭を切り落とされたキメラは、そのまま糸の切れた人形の様に地面に倒れた。

レイ「それじゃあ、武器を貰うぞ」

俺は、キメラが落としたブルズアイとオーガーを収納する。

そのまま、ステルス迷彩を起動させ人間陣営に向かう。

俺が、欲しいのは、人間陣営がキメラの銃を改良したスナイパーライフルだ。

人間にも扱えて高性能を誇るからな、欲しいんだよ。

数十分間走っていると、目の前に大きな壁を作つてキメラを迎撃している所があった。

レイ「あそこかな？」

少し、スピードを上げて走るとデッドアイで人間を駆逐しているキメラがいた。

レイ「予定変更♪」

俺は、デッドアイで人間を撃っているキメラをステルス・キルしていく。

デッドアイとは、キメラが作った超長距離からの狙撃を可能にさせたスナイパーライフルで放つ弾丸は、超音速のエネルギー弾である。

そのスナイパーライフルの威力には、ゲームプレイヤーだった俺からしたら、結構なお気に入りだった。

だつてアレだぞ？ヘッドショットすれば、大抵はワンショット・ワンキルだからな？

その話は、一旦崖にポイ捨てして、キメラが落としたデッドアイを手に持ち、近くに

いるカメラたちを狙撃していく。

因みに距離は、全然離れてないよ？

10mちよいの距離からステルス迷彩で隠れながら狙撃している。

それにしても、このデッドアイの威力は凄いなあ・・・

この威力だったら、ターミネーターのボディにも風穴を開けることできるんじゃないかね？  
つと、そんな事を考えていると、オーガー・ブルズアイ・デッドアイ・HE・44マ  
グナムを収納していく。

てか、コレくらいで良いかな？

400丁  
オーガー×45丁・ブルズアイ×230丁・デッドアイ×50丁・HE・マグナム×

レイ「コレくらいで良いかな？流石に取りすぎると、ヤバイしね・・・」

それにこの武器やターミネーター達は、基地の防衛や監視または、アイランド1の護  
衛武器として使うぐらいだし。

レイ「それじゃあ、カメラ君（ー、）／＼バイバイ」

俺は、来た時と同じように目を閉じる。

レイを中心に強烈な光が出て、レイの姿は消えた。

## 新たな矛と盾

神界

女神『はい。お帰りなさい』

武器回収が終わり、閉じていた目を開けると目の前に女神がいた。

レイ「武器回収に戦力回収が完了したし、もうそろそろ行く準備しますかな」

女神『体鍛えたの？』

レイ「・・・あ」

ターミネーターを回収してテンション高ぶって忘れてた・・・

女神『はあ・・・肉体が強くても精神が弱いと意味がないわよ？』

レイ「そう・・・だな」

どうするか・・・どこの世界が良いか・・・

女神『今から、世界に送るのもアレだから、この中で鍛えなさい』

そう言い取り出したのは、フラスコの中にアートの様な物ができた物を出した。

レイ「コレは？」



女神『ダイオラマ魔法球よ』

レイ「それって、ネギまで出てくる魔道具か・・・」

女神『そうよ。この中での一日は、外では、1分しか経たないわ』

レイ「この中で何を？」

女神『大丈夫だと思うけど、一応MSと戦術機の操縦法と恐怖心の克服をしてもらわ』

レイ「分かった。だが、中で修行したら歳を取るぞ？」

女神『安心なさい。中で過ごしても歳は取らないわ、それと中で死んでも生き返るか  
ら安心して大丈夫よ』

レイ「そうか。それじゃあ、早速入るわ」

俺は、フラスコのアート・・・ダイオラマ魔法球に近付き中に入る。

レイSide out

女神Side

私は、自分が転生させたレイが姿を消した事を見て考える。

全く、何の為に異世界に行かせたと思っっているのかしら・・・

確かに自分が見ていた映画ややってたゲームの世界に行けたら、興奮するんだろうけど、コレから行く世界は、死が隣り合わせなのだから・・・

女神『それにしても、あんな機体を作って欲しいなんてねー』

私は、机の上に置いてある書類を見てそう呟く。

女神『型式番号：ORGNL-000-OF-AS。名称：ガンダム O<sup>オービタルフレーム</sup>F アマツ

マガツチ』

生前レイが考えていたモンスター機体であり、私に製作を頼んだ機体だ。

私にとって、この機体の製作は簡単だった。

問題は、搭乘する人間が問題なのだ。

私たち、神や天使など人外ならば、簡易的に操縦できるが、只の人間が乗るとGに耐え入れず即死する。

そんなモンスター機体を考えたレイに驚いた。

女神『そう言えば、この機体。推進剤を全くもって使用しないのよね・・・』

この機体のフレームには、ガンダムWのゼロフレームとオービタルフレームを複合したゼロビタルフレームによって推進剤は急速な方向転換時に使用するスラスタ以外特でない。そして使用されているゼロフレームの技術によって、機体重量はたったの10tである。

それにスラストターは、極力使わずに済む程、オービタルフレームの性能が高い。

そんなフレームを使用し、装甲には特殊作戦用義体スーツと同じVPS装甲とTPS装甲を合わせたVTPS装甲と複合自己進合金素材装甲を使用している。

因みに複合自己進合金素材装甲は、その名の通りこの装甲は自己進化するモノであり、敵からの攻撃を受ければ、その攻撃を防ぐ程の強度に進化する。

女神『と言つても、あの世界で、この装甲を破ることもできないと思うけど』

なんせ、私が装甲を強化したからね。え？どうやって強化したか？

1000万<sup>ケルビン</sup>Kレベルの温度の攻撃を数十回して強化したわ。

そのおかげで、あの世界で大抵のビーム兵器やBETAの重レーザー級・超重光線級のレーザーを軽く防げる。

実体弾は、もはや無意味レベルに近い。

女神『まあ、あの子が帰ってきてから、渡せば言い訳だし私は、書類の処理をしないといけないわね』

そう言い机に転移させた書類を処理していく。

.....

6時間後

女神『・・・ふう。書類処理も、ひと段落ついたわね』

転移させた書類を半分以上処理し終え一息つきながら、レイが入ったダイオラマ魔法球を見る。

女神『6時間ですか。中では、約1年ですわね』

まあ、そんなに早くに帰って来れませんか。

基礎戦闘・戦術・破壊工作・諜報・話術・心理学・人体学・調査・分析・車輛・船舶・航空機・医療・救助活動などを教わっているのだから、そんな数時間でできるはずがないのだ。

女神『それでも普通の人間が教わるとしても10年はかかるわね』

私は、レイが帰ってくるまで、書類処理を進める。

.....

そんなこんなで、1日が経った。

中では、4年が経っている。

するとダイオラマ魔法球から文字が出る。

女神『あら？』

文字には、訓練完了と書かれていた。

その文字を確認すると同時にレイが姿を現した。

女神『お帰りなさい』

女神 Side out

レイ Side

目を開けると女神が目の前にいた。

女神『お帰りなさい』

レイ「ああ、ただいま。鍛えてきたぞ」

女神『あら、確かにそうね。色々と鍛えたみたいね』

ああ、鍛えたさ。隠密行動には、シュバルツ・ブルーダーにゲルマン忍術を学び、近接格闘類はバグと呼ばれているジャック・ラカンに学び、MSと戦術機の操縦は、シュミレーションで覚えた。

恐怖心の克服は直ぐにできた。

理由？簡単だな。バグと呼ばれたジャック・ラカンにシュバルツ・ブルーダーと近接戦闘をすれば、嫌でも恐怖心なんて消えてしまう。

レイ「驚いたぞ。シュバルツにラカン。あの2人が中にいるなんて」

女神『だけど、恐怖心が消えたでしょう？』

レイ「ああ・・・あんなバグと強者に鍛えられたら恐怖心が嫌でも消えるわ」

女神『そう、それなら良かったわ。それじゃあ、行ってもらいましょうか?』

レイ「了解だ」

女神『・・・と言いたいのだけど、アナタにコレを渡しとくわ』

そう言い女神は、PSPを取り出し俺に渡した。

レイ「PSP?」

女神『それには、アナタが生前やっていた小さいガンダムを動かす戦略ゲームを元に  
して作ったモノよ』

レイ「Gジエネを?」

PSPを起動させるとGジエネOWの起動画面になる。

女神『開発には、スコアポイントCAPを使用することで開発が可能よ』

スタートボタンを押すと開発画面に変わった。

その右上にCAP:500000と出ている。

レイ「50万って多すぎないか?」

女神『初回ボーナスってヤツよ。それと宇宙にアナタの拠点としてスペースコロニー  
とアイランド1をあげるわ』

レイ「それは、ありがたい」

女神『もしコロニーが欲しかったら、その開発欄から開発しなさい。大抵はコロニー

開発には、5日でできるわよ』

レイ「了解した。コレは有り難く貰い受ける」

女神『アナタの機体は、あちらの世界に送るわ。それじゃあお別れかしら?』

レイ「そうなるな。色々と助かった」

女神『アナタに幸福があらんことを』

女神がそう言うのと俺は、急激に襲ってきた眠気に身を任せ眠りについた。

# 主人公機

型式番号：ORGNL—OOO—OF—AS

名称：ガンダムOFアマツマガツチ

機体使用装甲素材：VTPS装甲（ヴァリアブルトランスフェイズシフト）・複合自己  
進合金素材装甲

頭頂高：19・25 m

本体重量：10 t      全備重量：25・8 t

ジェネレーター出力：18500 KW

スラスト総推力：14582 Kg

エンジン：超小型三大ハイパーエンジン・GNドライブ×2・アンチプロトンリアク  
ター

フレーム：ゼロビタルフレーム

ベクタートラップ内の武装（極力使用しない）

ウイスプ、フローティング・マイン、ゲイザー、ガントレット、コメット、デコイ、ファ



ランクス、ハルバード、ホーミングマイクロミサイル、マミー、モール、スナイパー、ジャベリン、ベクターキャノンなど

### 内蔵武装・外部武装

超振動周波ビームブレード×2、120mm大口径機関銃、ソードビット×6、背部翼内蔵プラズマビーム砲×2、腰部搭載電磁加速式レール砲×2、ビームライフルショーテーター×2、175mmグレネードランチャー装備57mm高エネルギービームライフル、超硬頑性超合金金属製高周波ブレード×2、反重力粒子エネルギー弾（万能）「マシンガン・ハイパーズナイパー・グレネード・ミサイル・ランダムバレット」、反重力粒子高エネルギー擬似太陽フレア「サン・フレア」など

### 詳細

ガンダム・オービタルフレームOF・バルキリーの技術をふんだんに使用した機体であり、モンスター超化物な機体。

フレームには、ウイングガンダムゼロにも使われたゼロフレームとOFに使われているオービタルフレームの2つを合成したゼロビタルフレームは、人間と同じ動きが可能になると同時に機体重量も軽減できること、慣性を無視した機動能力等を可能とした物である。その為、機体本体重量はたったの10tである。

エンジンの超小型三大ハイパーエンジンとは、重水素核融合エンジン・反重力エンジ

ン・亜空間推進エンジンの3つを超小型化（人間サイズ）させ合わせたハイパーエンジンである。（このエンジンとGNドライブに8t）

GNドライブは、主に期待全備重量の軽減と防御フィールド役。

宇宙航行もしくは、長時間・長期間航行する時には、変形をして飛翔する。

バルキリーの技術を使用しているだけあって、バルキリーのオブションパーツ（アーマード・トルネードパックなど）を装備できるが、装備中からのMS変形は、不可能であり、変形するにはオブションパーツをパージする必要がある。

この機体の最高速度は、亜光速まで到達できる程のスピードであるが、必要最低限以外は余り使用しない。

因みに武装は、MS・戦術機・バルキリーの3機種が使用可能。

この機体のコントロールには、脳波感応システムを使用し脊髄反射コネクターを特殊作戦用義体スーツと合わせる事でリアルタイムで機体が稼働する。

※反重力粒子高エネルギー擬似太陽フレア「サン・フレア」について

この「サン・フレア」は、反重力エンジンによる重力粒子と重水素核融合エンジンによる高エネルギーを限界まで圧縮し安定させた超破壊兵器であり、その威力は最低でも超大型大都市を消滅させる程の威力があり、最大では星一つを消滅させる事が可能。この兵器を多用できず、1発発射すると機体の全性能が60%ダウンする。次弾発射には、

約25分掛かる。

## マブラヴの世界へ

レイ「……ん……此処は？」

目が覚めると大きな椅子に座って机に突っ伏していた。

レイ「此処は……オフィス？」

顔を上げて周りを見ると何処か、豪華な雰囲気を出す部屋にいた。

机に目を向けると女神から受け取ったPSPと見知らぬ手紙が置いてあった。

レイ「手紙？」

俺は、手紙を開けると女神の姿がホログラムとして現れた。

女神『この手紙を読んでいるって事は、無事に着いたようね』

女神『今あなたがいる場所は、月の裏側に位置する場所よ』

女神『アナタがいるアイランド1が、主に民間人や難民が居住するモノで、軍事関係は、スペースコロニーで行うわ』

レイ「そう言えば、バトル・フロンティアとか環境艦とかあるのか？」

女神『もし分からない事や気になった事があつたら、PSPの「各種リスト閲覧」と

表示された所を見ると良いわ』

レイ「【各種リスト閲覧】？」

PSPを起動させてメニュー欄を見ると【開発】【生産】【OP】【各種リスト閲覧】と表示されていた。

開発と生産って同じじゃね？

女神『因みに開発は、アナタが設計した機体を開発する為の欄よ。生産は【開発】で作った機体を量産する欄よ』

レイ「それじゃあ、この【OP】ってオペションパーツか？」

マジか？オペションパーツって付けちゃったら結構チートに仕上がるぞ？

女神『分かっているとと思うけど、【OP】はオペションパーツ欄よ。コレといってオペションパーツの使用制限・所持数制限・同種装備制限は無いわよ』

レイ「チートに仕上がるじゃん・・・」

女神『一応。装備数は、10個までが限界よ』

それなら・・・いやダメだろ。

俺の性格を考えると完璧に魔改造されてしまう・・・

女神『それと、CPAの補充については、セレクトボタンを押せば出るわよ。それじゃあ、頑張ってね』

そう言いホログラムが消えると同時に手紙が量子化した。

CPAの補充法？

それも確かめないといけないが、まずは環境艦があるか調べないとな・・・

俺は、PSPの【各種リスト閲覧】を選択し【ユニット】【戦艦】が現れ【戦艦】を選択する。

すると【空母・輸送機・戦艦】【陸戦艇・陸上戦艦・移動要塞】【宇宙戦艦・宇宙航行戦艦・母艦】【環境艦・その他培養艦】などが表示された。

レイ「色々あるな・・・多分この【環境艦・その他培養艦】だろうな」

俺は、【環境艦・その他培養艦】を選択する。

すると、画面に【環境艦：アイランド3・アイランド4・アイランド8・アイランド14・アイランド15『開発済み』』と表示された。

レイ「開発済み・・・って事はあるみたいだな。」

それじゃあ、CPAの補充法を見るかな。

PSPのセレクトボタンを押すと『CPAについて・開発について・量産について・OPについて』と表示された。

レイ「OPは女神が説明したが、あとでまた確認するか」

俺は、『CPAについて』を選択する。

そこには、使用法・補充法が書かれていた。

### 使用法

CPAとは、コストポイントの略であり、このポイント使用法は、モビルスーツMS・モビルアーマーMA・シールドシールド・バルキリーバルキリー可変戦闘機・戦艦などを開発・生産する際に消費するポイントである。

### 補充法

このCPAの補充法は、BETA・戦術機などを殲滅・破壊すれば、ポイントが自動的に補充されます。

? 光線（レーザー）級 || 350CPA

? 重光線（レーザー）級 || 450CPA

? 要撃（グラップラー）級 || 230CPA

? 突撃（デストロイヤー）級 || 300CPA

? 要塞（フォート）級 || 350CPA

? 戦車（タンク）級 || 180CPA

? 闘士（ウォリアー）級 || 150CPA

? 兵士（ソルジャー）級 || 120CPA

? 重頭脳（ブレイン）級 || 4500CPA

? 頭脳（ブレイン）級 || 2500CPA

? 母艦 (キャリアー) 級 || 2200CPA

? 門 (ゲート) 級 || 2100CPA

? 超重光線級 (r (ゲイ) 標的) || 5000CPA

・ 戦術機 || 100CPA

・ イレギュラー (最弱 ~ 弱) || 100 ~ 500CPA

例 : ザク I

・ イレギュラー (弱 ~ 中) || 500 ~ 800CPA

例 : ザク II ~ ジム

・ イレギュラー (中 ~ 強) || 800 ~ 1400CPA

例 : ガンダム

・ イレギュラー (最強 ~ 最凶) || 1400 ~ 3800CPA

例 : サイコガンダム

これらのCPAを精算し出されたCPAが獲得CPAとなります。

レイ「戦術機がBETAよりポイント低いつて・・・」

まあ、確かに関節部の脆さやフレームの脆さを言ったら、低いかもしいれないが・・・  
レイ「ま。良いか。俺はこの世界を平和にすれば良いだけだし」

それじゃあ、確認したし今度は、少し軍事関連の事を確認するかな。



## マブラヴの世界へ2

レイ「え」と、現在ある勢力は・・・」

MS・MA勢

・MS―05 「ザク」×10000

・M61A5 MBT 「61式戦車」×10000

・M353A4 「ホバートラック」×10000

・MS―06K 「ザクキャノン」×5000

・RB―79 「ボール」×30000

・RB―79K 「先行量産型ボール」×8000

可変戦闘機勢

・VF―22S 「シウトウルムフォーゲルII」×40000

・VF―171 「ナイトメアプラス」×40000

・VF―19F 「エクスカリバー」×25000

## デストロイド勢

- ・ ADR | 04 | Mk. X 「デイフェンダー」 × 50000
- ・ SDR | 04 Mk. X II 「フランクス」 × 50000
- ・ オクトス (型式番号不明) × 40000
- ・ ADR | 04 | Mk. XV 「スーパーデイフェンダー」 × 20000
- ・ シャイアン II (型式番号不明) × 60000
- ・ ワークス (型式番号不明) × 80000 (作業用)

## 戦艦勢

- ・ 超大型輸送空母 「ドロス」 × 8
- ・ ムサイ級軽巡洋艦 「ムサイ後期型」 × 50
- ・ サラミス級巡洋艦 「サラミス (83)」 × 4
- ・ グワジン級戦艦 「グワジン」 × 4
- ・ ピースミリオン級宇宙戦艦 「リーブラ」 × 1
- ・ 高速輸送機 「スパーソニックトランスポーター」 × 10
- ・ 輸送艦 「宇宙母艦」 × 40
- ・ 130m級護衛艦 「ドレイク」 × 400
- ・ ナスカ級高速戦闘艦 「ナスカ」 × 5

マクロス勢

- ・バトルフロンティア×1
- ・マクロススクォーター×1

レイ「こんなにいるのか・・・だけど、人員は？」

こんなに強力な戦艦に機体が多くあつたとしても、それを動かすパイロットがいないと意味がない。

レイ「・・・俺以外、誰もいない・・・」

コレは、ヤバイ・・・

今のままだったら、完全にこの世界に來た意味がない・・・

レイ「それじゃあ、早速CPAを使用して増やすか・・・」

それにしても、リーブラまであるなんて・・・

マクロスとかある時点で十分な戦力なのに宇宙要塞まで出てくるなんて・・・

女神イ・・・

リーブラ。

ガンダムWで搭乗する超大型宇宙戦艦であり、その大きさは、全長3500m。全高1500mと言う大きさだ。

このリーブラの特徴は、メインブロックの下部に砲口があり、その砲口から放たれる主砲の威力は、一つの島・都市を消し去る程の威力を持つている事だ。

そしてこの主砲は、宇宙空間から地球上を狙撃する事ができる。

レイ「まあ、リーブラもただ俺の正体が明るみになるまで隠密行動をとらないとな・・・」

今後の活動も・・・だけど

レイ「まず、人員を集めないとな・・・」

俺は、PSPの画面を見ると画面右下にスカウトと表示された部分を選択した。

レイ「・・・Gジェネ感覚でスカウトを選んだが、コレで良いのか？」

勢いで選択した俺が、画面を見てみると右上にSCOUTと表示され欄が現れた。

そこには、連邦軍、ジオン軍、デラーズ・フリート軍、エウゴ軍、ティターンズ軍、ネオ・ジオン軍、グレミー軍、新ネオ・ジオン軍、ネオ・ジオン軍残党「袖付き」、クロスボーン・バンガード軍などが表示されていた。

大抵の戦力となる兵士の消費CPAがコレだ。

一般兵・モブ || 10CPA

一般兵・モブ (エース) || 15CPA

特定キャラクター || 20CPA

特定キャラクターは、作品で登場するキャラクターの事である。

レイ「この場合は、最初は少数部隊が良いか・・・」

うくん・・・少数部隊かー

レイ「デラーズ・フリートかネオ・ジオン軍か・・・」

数分間悩み俺は、デラーズ・フリートにした。

レイ「デラーズ・フリートで良いか・・・」

MS・バルキリーパイロット人数は・・・エースを含めて2000人で良いか。

レイ「と言つても此処でスカウトすると大変な予感がするな・・・」

少し移動して・・・

レイ「そう言えば、美星学園の校庭で良いかな？」

## マブラヴの世界へ3

### 美星学園の校庭

この校庭に来るまでに時間があつたので、PSPで何個か惑星型・要塞型の宇宙基地を探していたら驚いた。

小惑星基地「アクシズ」・宇宙要塞「ア・バオア・クー」・宇宙要塞「ソロモン」・宇宙要塞「アルテミス」が表示されたのだ。

いや、まあ・・・PSPに表示されたMSの数を見ると十分必要なんだけど、根本的な問題は・・・

あの万単位のMSが何処にいるのかなんだ・・・

このアイランド1にもコロニーにも流星に入り切らないし・・・

レイ「アクシズ？いやア・バオア・クーの方が良いか・・・」

PSPでア・バオア・クーのCPAを見ると基地初回限定ボーナスと小さく表示されると同時に4000CPAと表示された。

レイ「基地初回限定ボーナス？」

スカウトの方を見るとスカウトキャラの表示CPAの上に小さくスカウト初回限定ボーナスと同じ様に表示されていた。

レイ「全部あるのか？」

MS・バルキリーその他モロモロも同じ様に、「初回限定ボーナスと表示されていた。レイ」と言うか、初回ボーナス安くね？」

俺的に宇宙要塞であるア・バオア・クーが4000で済んでいる事に驚きなんだが：：普通考えても何十万は、消費するかと思っただがな．．．

レイ「まあ、安いなら安いに越したことは無いか．．．」  
でも、俺がいる場所って月周辺の裏側だったよな？

そんな所にア・バオア・クーを突然出したらヤバイか？

特にアメリカ辺りが煩そうだな．．．

レイ「ん？あれ？でも確かこのアイランドとコロニーってミラージュコロイドで姿を常時隠してるんだっけ？」

それだったら、ア・バオア・クーも同じように隠すことができるか？

レイ「まあ、物は試し様ですか？」

俺は、ア・バオア・クーを選択する。

するとPSPの画面が変わりGジェネでお馴染みのフェイズMAP表示がされた。

少し違うとすれば、MAPの広さが尋常じゃないことだ。

それと月の背景の横に戦艦以上の大きさがあるアイランドーを含めた戦艦隊が表示されている事。

よく見ると、このMAPに先ほどCPAで購入したア・バオア・クーを設置するみたいだ。

取り敢えず、アイランドーの横に3マス空けて設置させてみる。  
するとGジエネ特有の機体や戦艦の登場の仕方で設置された。

レイ「コレで良いのか？」

PPPから目を離してアイランドーの上・・・つまり天窓ドームから宙。宇宙を見るとアイランドーの真横にア・バオア・クーの巨大姿が現れていた。

レイ「ほおーやっぱりデカイな〜」

俺は、アニメで見ていたア・バオア・クーが間近にある事に感動して歩く事を止めていた。

ア・バオア・クーを見続けて5分が経っただろうか。

レイ「じゃなかった・・・さつさと美星学園に行つて人員の確保をしないと・・・」  
俺は、走つて美星学園の校庭に向かう。

10分後



美星学園校庭

レイ「んじゃあ。スカウトしますかな」

PSPのスカウトメニューを見ると消費CPAが驚きの安さになっていた。

1キャラに消費CPAが、たったの5CPAなのだ。

レイ「安っ!!」

レイ「え?!モブキャラ扱いの兵士で5!」

いや・・・でも、安い事に越した事は無いか・・・

俺は、モブキャラ兵士(デラーズ軍)を35000人スカウトする。

消費CPAが175000と高くなってしまったが、コレだけで済んだ事に感謝だな。

ザワザワ・・・

スカウトした35000人のモブ兵士達が一気に美星学園に転移して来た。

レイ「此処にいる兵士全員に告げるが、少し待っていてくれ」

俺のその言葉を聞いて転移して来た兵士全員が黙り此方を見ていた。

レイ「やつぱり、デラーズ軍だったら、指揮官は・・・エギーユ・デラーズだろうな・・・」

俺は、特定キャラスカウトメニューを選択する。

その中のデラーズ軍指揮官であるエギーユ・デラーズと部下であるアナベル・ガトー

をスカウトする。

消費CPAは、たったの20だ。

初回ボーナスさままだな・・・

実際だったら、特定キャラ1人で20CPAなのだが、初回ボーナスのおかげで10CPAで済んだ。

まさか、まとめ買いすると初回ボーナスが付属された状態で買えるとはな・・・スカウトした2人。デラーズ閣下とガトー少佐が美星学園の校庭に転移して来た。

レイ「初めまして、デラーズ閣下。ガトー少佐」

俺は、転移して来た2人に敬礼し挨拶する。

デラーズ「やめたまえ、キミに敬礼は似合わない。夜月　レイ君」

レイ「俺をご存知で？」

デラーズ「ああ、女神から聞いているよ」

レイ「そうですか、それなら話は、早いですね」

デラーズ「ああ。私たちの力を貸そう」

レイ「ありがとうございます」

俺は、頭を下げ感謝する。

デラーズ「頭を上げなさい。キミがこの組織のリーダーなんだ。そう簡単に頭を下げ

てはいけない」

レイ「いえ、本当にありがとうございます」

俺は、頭を上げてデラーズ閣下の眼を見て言う。

レイ「俺一人では、どうしようもできませんが、デラーズ閣下を含めた兵士達に力を貸していただく事を感謝しています」

デラーズ「そうか。では、我々の力をBETA共に見せ付けよう」

レイ「はい」

俺は、次にガトー少佐方を向く。

レイ「アナベル・ガトー少佐」

ガトー「っは!!」

俺が名前を呼ぶと直ぐに敬礼をするガトー少佐。

レイ「アナタやアナタの部下全員にも感謝します」

ガトー「………発言をよろしいですか？」

レイ「ああ」

ガトー「私達を再び戦場に呼んでいたただき感謝しています」

レイ「……え？」

ガトー「私達がこうして呼ばれたからには、それなりの理由があると理解しています。

私も、いえ私たちもBETA殲滅の力を貸します」

ビシッ!!

ガトー少佐がそう言うと同時に美星学園校庭にいる全兵士が敬礼をした。

レイ「よろしくお願いします」

俺は、慣れていないが敬礼を返し感謝する。

## コレからについて

エギーユ・デラーズ閣下率いるデラーズ軍をスカウトし終え俺たちは、一時的に美星学園で状況整理していた。

ガトー少佐とその他兵士には、BETAの動きを転写したシミュレーション（戦絆の丸型のヤツ似）をしてもらっている。

俺とエギーユさん（俺が、デラーズ閣下と言うのが似合わないらしい）は、美星学園の屋上で話している。

レイ「エギーユさん。今俺たちがいるこの世界は、アナタ方がいた世界より技術が進んでいません」

デラーズ「その様だ」

レイ「そして厄介なのは、BETAの情報収集能力です」

デラーズ「ふむ・・・確かにたった3日とは言え空を飛ぶ航空機を地上から狙撃する対空兵器を生み出した、その情報収集能力は厄介だ」

そう、BETAの情報収集能力と生成能力は驚異的だ。

BETAが攻めてきた最初の1日は、戦闘ヘリコプターや戦闘機で地球が圧倒していたが、2日目でヘリコプターなどの攻撃を受け付けなくなってきた、地球側の勢いが弱まり、3日目でレーザーを放つ原光線級<sup>レーザー</sup>を産み出し、瞬く間に対空兵器の使用が制限されてしまった。

レイ「その為、俺はビーム兵器にレーザー兵器を最後の最後・・・それこそ実体弾の限界が来るまで使わない様にしようと思っっているんです」

コレを考えると、ビーム兵器やレーザー兵器などを使用し続ければ、BETAはその内それに対抗する『何か』を作り出すはずだ。

それをさせない為に最後の最後に残しておくのが、賢明だと思う。

デラーズ「そうか、そうなると実弾兵器の装弾数が問題になるぞ？」

そうだ。エギーユさんが言った通りザク・マシンガンやザク・バズーカ、三連ミサイルポッドなどの装弾数が確実に問題になるのだ。

実際、1年戦争の時にザクマシンガンの弾が切れて仲間に弾を要求するシーンもあった。だが・・・

レイ「はい。ですが、このPSPを使えば、その問題も解決できます」

デラーズ「具体的には、何をやるのだ？」

レイ「先ほど確認の為に【開発】を見たら分かった事ですが、この【開発】は、武器

なども強化・開発が可能でした」

デラーズ「そう言う事か、つまりその【開発】で武器の装弾数を上げると言う事だな」  
レイ「はい。それに女神のお陰かMSに付属できるOPもPSPの在庫表示には、同種OPが30万もあるんです」

デラーズ「そうか」

レイ「この世界には、厄介な存在が沢山います。BETA・G弾・アメリカ・第V計画」

デラーズ「確かにアメリカは、なぜそこまでして先にある宇宙の新天地を目指すのか分からぬな」

レイ「はい。BETAがそれより先の宇宙から来たのに安全だと思ふ根拠は何なんでしようか？」

2人してアメリカの馬鹿さに呆れる。

レイ「つと、話が逸れましたね。コレから事ですが、3ヶ月後に月ハイヴを攻略しに行きます」

デラーズ「・・・3ヶ月後か？少し早すぎるのではないか？」

確かに速い。だが、この世界で悠長していられないのだ。

この1年後には、光州作戦が始まってしまうのだから・・・

レイ「すみません。早めに月にあるハイヴを攻略し月に基地を作りたいんです」

デラーズ「そうか・・・」

レイ「俺もシミュレーションに参加し鍛え上げます」

デラーズ「ほう？それ程の腕前があると言うのか？」

俺の言葉にエギーユさんが、少し口調を強めて言ってくる。

レイ「失礼ながら、コレでもエギーユさん方呼んだ本人ですよ？呼んだ本人が弱いんじゃない後には、続きませんから」

戦争を体験した事のない俺が言うのもアレだが、俺も死線はくぐり抜けて来ている。

主にラカンとシユバルツの訓練で・・・

デラーズ「それなら、ガトー少佐と戦って勝利してみよ。その力を我々に見せるのだ」

レイ「分かりました。どちらにせよ、兵士みんなに俺の実力を見せないといけません

し・・・明日の1400にてガトー少佐と決闘用シミュレーションを使用し決闘します」

デラーズ「うむ。ガトー少佐には、此方から伝えよう」

レイ「機体選択に制限はなしです。時間も無制限です。敗北は、降伏宣言・戦闘続行不可です」

デラーズ「レイ。貴様の實力を見せてもらおうぞ？」

レイ「はい。全力で行きます」



俺は、そう言い部屋を出ようとするが、伝え忘れた事があったので止まってエギーユさんの方を向く。

レイ「兵士みんなに言つといて下さい。この学園の寮を自由に使っていていいと、エギーユさんとガトー少佐は、寮から少し離れた場所にある寮を使つて下さい。それだけです。では、また明日」

## ソロモンの悪夢VSチート？（バグ？）

1400

シユミレーションシステム室

レイSide

シユミレーターの周りには、スカウトしこの世界に転移して来たデラーズ軍兵士たちが囲んでいた。

そんな兵士に囲まれる中、俺はエギーユさんの隣に立っているガトー少佐と見つめ合っている。

レイ「ガトー少佐。すみません、アナタがいない間にこの様な形で戦う事になってしまった」

ガトー「いえ、私本人もアナタの実力が気になっていましたから」

レイ「そうですか」

ガトー「ですが、せめて話しを通して欲しかったですね」

レイ「・・・すみません」

ガトー「ははは。冗談ですよ。ですが次からは話を通して下さいね」

レイ「そうさせていただきます」

俺とガトー少佐が話し終わるとエギーユさんが前に出た。

デラーズ「さて、ガトー少佐。昨日伝えた通りだ」

ガトー「はい」

デラーズ「では、2人ともシユミレーターの中に」

エギーユさんに言われ俺とガトー少佐は、シユミレーターの中に入り機械の電源を入れる。  
れる。

電源を入れると液晶画面に機体選択画面になる(戦絆の機体選択を思い浮かべてくれ)

俺は、自分の専用機であるアマツマガツチを選択する。

武器は、120mm大口径機関砲(装弾数:8000)×2、ビームライフルシューター×2、超頑丈性超合金金属製高周波ブレード×2を選択する。

すると画面が切り替わり数得きれないほどの星が浮かび上がる無重力世界に来了。

そうステージは、宇宙だ。

レイ「宇宙か・・・」

俺が呟くと、その暗黒の世界に一筋の青い流星が走った。

レイ「来たか・・・」

青い流星は、俺の近くに止まりその姿を現した。

肩に大型スラスターがあり、背中には3つの砲塔が2つある。

特に印象的なのが、左手に持っている馬鹿でかい盾だ。

レイ「試作2号機か・・・」

型式番号 RX-78-GP02 (MLRS) custom

トリントン基地でのテストに間に合わなかった装備で、拠点攻略及び中距離支援を目的に用意された実体弾兵器。機体背部に6発分のランチャーを装備する。単発の発射によって時間差や個別攻撃も可能だが、一斉発射によって広範囲の敵を攻撃することも可能にした装備だ。

だが、通常のMLRS装備型とは違い所々を改良したカスタム機体だ。

通常弾種が4つと特殊弾種が2つ搭載されている。

この機体は俺が、考えた機体の一つだ。

オールドタイプの人種の中でもガトー少佐などのエースパイロットが乗ることを前提に再設計したカスタム機。

関節部分にマグネットコーティングを施しアポジモーターの増設をした事で驚異的な稼働能力を得ている。

フレームは、ムーバブルフレームを採用している。

コレによって、試作2号機の性能は飛躍的にアップしている。

その性能の高さは、数年後のFXA-178「スーパーガンダム」を越える程である。

レイ「まさか、俺本人が設計したMSと戦うことになるとはな・・・」

俺は、そう眩きながら通信をオンラインにした。

レイ「どうですか?元愛機は?」

ガトー「ええ、驚いています。私が乗っていた2号機とは、別物ですよ」

レイ「その機体には、アトミックバズーカの代わりにビームバズーカを搭載されているんですが、エギーユさんにも言いましたが、ビーム兵器にレーザー兵器などは余り使わない様にする為に搭載されていません」

ガトー「道理である筈の武装がないと思いました」

レイ「その代わりに機体重量とビームサーベルの出力も前より上がりますよ」

ガトー「そうですか・・・では」

レイ「ええ。1対1の真剣勝負を始めましょう」

そう言う俺は、OFの慣性を無視したダッシュで後ろに下がる。ガトー少佐は、背中にある大型スラスタを吹かして距離を取った。

するとモニター上部に5秒と表示されカウントダウンを開始する。

5.....試作2号機が腰からビームサーベルを引き抜きピンク色のビーム刃を

出す。

4……………俺も同じ様に腰の超振動周波ビームブレードを引き抜き蒼色のビーム刃を出す。

3……………試作2号機が背中にある大型スラスタを吹かし始める。

2……………2号機がスラスタを吹かすと同時にビームサーベルの出力を上げて細かったビーム刃が一気に太くなる。

1……………両者が動きを止める。

たった5秒間が、異様に長く感じる。

……………0

カウントダウンが0になると同時に試作2号機が一気にスラスタを吹かし太いビームサーベルを構えて突撃してくる。

レイ「行くぜえええ!!」

俺もそれを迎える為に俺もビームブレードを構えて突撃する。

離れていた距離が数秒で詰められた。

バチチチチ!!

ビームブレードと大出力ビームサーベルがぶつかり合い激しいスパークが発生する。

バチンツ!!バチチチチ!!バチンツ!!バチンツ!!

2と3回鏢迫り合いするが、このまま鏢迫り合いをし続ける気は無い。

レイ「そこお!!」

俺は、三回目の鏢迫り合いで機体を右に旋回させて回し蹴りを試作2号機に放つ。

だが、その蹴りは空振りに終わる。

俺が、蹴りを放つ事が分かったのか、俺が機体を旋回させた時点でスラスターを使い後方に下がったのだ。

俺の回し蹴りを避けると試作2号機は、太く長くなった大出力ビームサーベルでリーチを生かした近接攻撃をして来た。

レイ「まだまだあ!!」

その攻撃をビームブレードで防ぐ。

ブウンツ!!バチチチチ!!

俺がビームブレードでビームサーベルを止めると試作2号機が間波入れずに頭部に装備されている60mm頭部バルカンを放ってくる。

レイ「あぶっ!!」

俺は、放たれる60mm頭部バルカンを最低限の機動で回避する。

実際だったら、回避をしなくても済むのだが、訓練用・決闘用シミュレーターには、ヒット判定が出たらその部位が稼動しなくなるシステムになっている為だ。

それが、例え60mm頭部バルカンでもだ。

レイ「ならっ!!」

シュツン!!バシユン!!バシユン!!バシユン!!

俺は、慣性を無視した動きであるダツシユを活用しながら片手でビームライフルショーティを3発放ちながらで距離を空ける。

1発目は頭部に向けて、2発目はビームサーベルを握る右手に向けて、3発目はコックピットに向けて放つが、試作2号機の特徴的な冷却装置内蔵の大型シールドで3発全てが塞がれる。

レイ「おっ!!らあああ!!」

距離を空けると同時に背中中の背部兵装ウイングに内蔵されているプラズマビーム砲を放つ。

蒼色のビームが試作2号機に向かうが、コレはシールドで防がずスラスターを吹かして回避をした。

コレは、正直正解である。

何故なら、あのシールドはビームライフル程度なら弾けるが、核によって得られる高エネルギーを圧縮されたプラズマビーム砲では、防ぎきれない為だ。

レイ「流石、ソロモンの悪夢だ・・・」



機体性能は、教えていない筈なのだが、戦場で鍛えられた『勘』で回避行動に出たのだろう。

掠りもせずに回避しきったのは、驚きだ。

レイ「だが、分かっていった事だ」

俺は、そのまま腰に搭載したレール砲とビームライフルシヨーティイを追撃として放つ。

場所は、全て機体の急所である場所だ。

ビシュツ!!

俺の放った、弾速が速いレール砲の1発が、試作2号機の肩に掠る。

レイ「掠るだけかよ・・・」

もはや、ガトー少佐がオールドタイプではなくニュータイプに思えてくる・・・

レール砲が掠ると同時に試作2号機が此方に再び突撃してきた。

レイ「悪いけど、そろそろ終わらせるよ・・・」

俺は、機体を後ろに反転させて宇宙空間に浮いているデブリ群に進む。

まあ、機体のリミッターを全て外せば、圧勝できるんだが、俺の今の実力を知りたいからな。

俺がデブリに向かうと、試作2号機が追いかけてくると同時に背中の中三連ミサイルラ

ンチャーが発射体制に入る。

レイ「まあ、良い的まだもんな」

俺は、デブリを盾にしながら移動するが、デブリを利用して後ろにキツチりとくっついて距離を空けない試作2号機。

レイ「おいおい。リミッターが掛かっているのに追いつくつて・・・」

俺が呟くと発射体制に入っていたミサイルランチャーが2発発射された。  
2発とも特殊弾頭だ。

レイ「その程度!!」

俺は、体制を変えずに背中を見せた状態で背部のプラズマビーム砲を放ち迎撃する。

シユツ・・・ドゴオオオオオン!!

迎撃として放ったプラズマビームが1発の特殊弾頭に当たり爆発する。

もう1発は、弾頭がパージされ中に内蔵されていた50発もの小型マイクロミサイルが発射された。

レイ「つちい!!まさか、クラスターミサイルの方かよ!!」

特殊弾頭には、複数の種類がある。

その1つが、今俺に迫って来ているマイクロクラスターミサイル(MCミサイル)だ。

俺は、迫ってきているマイクロミサイルをデブリを盾にデブリ群を駆け抜ける。

ドドドドドゴオン!!

ジグザグにGを無視した機動しながらマイクロミサイルを回避していくと、俺を追跡していた数発のマイクロミサイルが、デブリ群に着弾し爆発していく。

レイ「流石、俺が設計しただけある。全く振り切れないぜ・・・」

まだ、数十発ものマイクロミサイルが追跡してきている。

レイ「つなら!!」

俺は、OFで登場する兵器の一つであるデコイを使用する。

このデコイは、装甲に瞬間的な負担を掛けて分身を発生させる事が出来る物だ。質量を持っており、突然現れた分身にマイクロミサイルは、向かって行く。

ドガアアアアン!!

マイクロミサイルが全弾着弾すると同時に俺は、大きなデブリに隠れる。

レイ「さてと、何とか振り切れ・・・」

ビーイイ!!ビーイイ!!

俺が、デブリに隠れて一息吐こうとするが、それを許さないかの様にコックピットに警告音が鳴り響く。

レイ「つくそ!!」

警告音が鳴り響く方向に機体を向けると緑色のビーム刃が目の前に迫っていた。

俺は、ビームブレードで防ごうとせずに機体を動かし、緑色のビーム刃の斬撃を回避する。

だが、攻撃を止めずにバルカンで追撃してくる。

レイ「つやば!!」

俺は、直ぐにベクタートラップ内にあるシールドを取り出し攻撃を防いだ。

レイ「危なかったー・・・」

シールドの覗き隙間から試作2号機を見ると既にスラスターを吹かして近くに接近していた。

スラスターを吹かして出たスピードに試作2号機は、突き蹴りをして来た。

ドゴオン!!

質量とスピードの乗った蹴りは、コックピットに乗っているパイロットに、つまり俺に直接ダメージを与えると同時に機体にもダメージを与える一石二鳥な技をして来た。

レイ「つぐう・・・」

スーツと機体のお陰でダメージは、少ないが俺の動きを止めるのには十分だった。

止めとして躊躇なくビームサーベルを振り下げてくる試作2号機。

レイ「やられつかよお!!」

俺は、振り下ろされたビームサーベルを慣性無視の機動で間一髪で回避しビームサー

ベルを振り下ろして生まれた一瞬の隙を俺は逃がさず、ビームブレードでコックピットを切り裂いた。

バチンツ!!バチンツ!!ドゴオオオオオン!!

レイ「はあはあ・・・」

クラクラする頭を抑えながら、画面を見るとWinと表示されていた。

レイ「ソロモンの悪夢に勝ったか・・・ははは」

俺は、初の戦闘に気が緩み目を閉じ気を失った。

## 星の流れ・・・

レイ「・・・ん・・・此処は？」

目が覚めると真っ白な天井を見ていた。

確か・・・ガトー少佐と戦闘して勝利して・・・

レイ「気を失ったのか・・・」

俺は、体を動かして身を起こして周りを見ると医療機具が周りに置いてある。

レイ「此処は・・・医療室か・・・」

カシュー・・・

ガトー「目が覚めましたか」

俺が、周りを見渡していると部屋の扉が開きガトー少佐が入ってくる。

レイ「ガトー少佐ですか・・・あの決闘は・・・」

ガトー「アナタの勝利です。私の負けです」

レイ「そうか・・・」

プシュー・・・

デラーズ「そう言う事だ。これより私たちがデラーズ・フリート軍は、貴官の指示に従う」

レイ「そうですか・・・それにしても、まさか、緊張し過ぎて気絶とは・・・情けないですね」

ガトー「そうでもありませんよ。失礼ですが、このアナベル・ガトーを倒したんですから、誇つて良い事です」

と言われてもね・・・あんなにラカンやシュバルツと戦つたのに、緊張し過ぎて気絶か・・・

レイ「鍛え直しだな・・・」

デラーズ「その前にコレからの事を決めないといけないぞ？」

レイ「そうですね・・・今後の俺たちの予定は、戦力の強化と月ハイヴの戦略についてです」

デラーズ「戦力強化かね？」

レイ「はい。今の戦力では、人員が足りてません。ですから、地道にですが、月ハイヴを戦略していきます」

デラーズ「それでは、対策を練られてしまうのではないか？」

レイ「それなのですが、近接武装であるビームサーベルなどの武装は極力。それこそ

危険な時以外は使用しない様にして欲しいんです。ザクのヒートホークやザクバズーカなどの実体兵器を使用して倒していきます」

デラーズ「ふむ……何故地道にやるのだ？」

レイ「まあ……簡単に言うると人員をスカウトする為のポイントが足りないんです。ですから、少しの間ポイント回収の為に」

デラーズ「地道にやるということかね？」

レイ「そう言う事です」

ガトー「では、私たち兵士の搭乗するMSは、ザクと言う事ですね？」

レイ「はい。ですが、皆さんには、強化したザクに乗ってもらいます」

ガトー「強化したザクですか？」

レイ「はい。MS-06R-2「高機動型ザクⅡ」とMS-06F-2「ザクⅡ後期型」の2機の操縦の簡易性・整備性・機動性などの全てを下げずに強化したザクⅡに乗ってもらいます」

ガトー「……資料はありますか？」

レイ「ええ。俺の部屋にあります。後で届けます」

ガトー「分かりました」

デラーズ「ふむ。緊張で倒れたとわ言え、安静にする必要がある。我々は、出て行か



せてもらうぞ」

レイ「はい。後日、ガトー少佐とエギーユさんの部屋に資料をお届けします」

デラーズ「わかった。ではな」

ガトー「それでは、失礼します」ビシッ

そう言いエギーユさんとガトー少佐は医療室から退出していった。

レイ「さてと、俺も寝ますかな・・・」

# 強化MS資料

型式番号：MS-06F-2

名称：ザクⅡ後期型

分類：モビルスーツ

機体使用装甲素材：超硬スチール合金、フルアーマーシステム、ナノ・スキン装甲

頭頂高：17.5m

本体重量：49.5t(元) ↓ 34.5t(改)

全備重量：75.0t(元) ↓ 53.3t(改)

ジェネレーター出力：1340kw(元) ↓ 1600kw(改)

スラスト総推力：58000kg

エンジン：熱核融合反応炉

フレーム：ムーバブルフレーム

武装：MMP-78後期型(グレネードランチャー装備)、MMP-80、280mmバズーカ(ザクバズーカ)、シュツルムファウスト、クラツカー、ヒートホーク、三連ミ

サイルポッド、ZIM/M・TK175C無反動砲（マゼラ・トップ砲）、Sマイン、135mm対艦ライフルなど

### 詳細

元であるザクII後期型をレイが手を加えて改造した機体であり、汎用性・拡張性・生産性・操縦性・信頼性などの全てを下げるどころか上げた量産機体。

フレームをムーバブルフレームに変える事で機体各部の可動域の拡張がされている。推進剤の消費量も格段に減っており、長時間の戦闘も可能になっている。

人物によって、機体の性能を変える事もできる様になっている。

装甲には、フルアーマーシステムとナノ・スキン装甲を練り込ませた超硬スチール合金によって、絶大な防御力を所有すると同時に内部機器すら、ある程度なら修復してくれるナノ・スキン装甲のお陰で整備不全でも時間さえあれば、完全修復が可能になっている。

### Gジェネ風

・HP：8640（元）↓9500（改）

・EN：80（元）↓120（改）

・攻撃力：13（元）↓20（改）

・防御力：13（元）↓20（改）

・機動力：16（元）↓24（改）  
 ユニットアビリティ

・シールド防御可能：敵から受けるダメージを40%軽減

・支援防御可能：味方の攻撃を代わりに受ける。

・フルアーマーシステム：実体弾系・通常格闘・必殺技属性の攻撃ダメージを30%

## 減

・ナノ・スキン装甲：毎ターンHPを5%回復させる。

## オプシヨンパーツ

・対衝撃吸収性強化回路I：最大HP+10%

・バッテリー：最大EN+10%

・出力リミッター解除ユニットI：攻撃力+5

・ガンダリウム合金：防御力+5

・ウイングバインダー：機動力+5

・スナイパーセンサー：射撃値+5

・簡易OS：射撃・格闘・反応・守備値+5

・高性能火薬：実体弾系武装威力+10%

・ダメージ機能：回避時に回避率+5

・対ビームコーティング（レーザー含む）：貫通ビームを除くビーム射撃とビーム格闘の攻撃を30%軽減

型式番号：MS-06R-2

名称：高機動型ザクⅡ後期型

分類：モビルスーツ

機体使用装甲：超硬スチール合金、チヨバムアーマー、スーパーナノスキン装甲

頭頂高：17.5m

本体重量：49.5t（元）↓34.5t（改）

全備重量：75.0t（元）↓53.3t（改）

ジェネレーター出力：1340kw（元）↓1600kw（改）

スラスト総推力：58000kg

エンジン：熱核融合反応炉

フレーム：ムーバブルフレーム

武装：MMP-78後期型（グレネードランチャー装備）、MMP-80、280mm

バズーカ（ザクバズーカ）、シュツルムファウスト、クラッカー、ヒートホーク、三連ミ

サイルポッド、ZIM/M・TK175C無反動砲（マゼラ・トップ砲）、Sマイン、135mm対艦ライフルなど

詳細

元の高機動型ザクII後期型を、レイが改造した機体なのだが、この機体はエース用であり通常の後期型とは、取り扱いが難しい。

だが、最初の高機動型より操縦性を含めた全てが、改善されている。

宇宙空間での戦闘に特化させており、地形適応能力はAに対し重力のある地上での地形適応能力はDである。

—その代わりに宇宙空間での機動性と俊敏性が改造前の高機動型より高いくなくなっている。

Gジエネ風

HP：8950（元）↓11500（改）

EN：95（元）↓130（改）

攻撃力：15（元）↓25（改）

防御力：15（元）↓25（改）

機動力：19（元）↓28（改）

ユニットアビリティ

- ・シールド防御可能：敵から受けるダメージを40%軽減

- ・支援防衛可能：味方の代わりに攻撃を受ける。

- ・チョコバムアーマー：実体弾系・通常格闘・必殺技属性の攻撃を半減。

- ・スーパード・ナノ・スキン装甲：毎ターンHP10%自動回復。

#### オプシヨソパーツ

- ・対衝撃性強化回路Ⅱ：最大HP+20%

- ・パワーバツテリー：最大EN+20%

- ・出力リミツター解除ユニツトⅡ：攻撃力+10

- ・ガンダリウムγ：防御力+10

- ・シエルフノズル：機動力+10

- ・スナイパーセンサー：射撃値+5

- ・簡易OS：射撃・格闘・反応・守備値+5

- ・高性能爆薬：実体弾系武装威力+20

- ・ダメージ機能：回避率+5

- ・対ビームコーティング：貫通ビーム射撃を除くビーム射撃とビーム格闘の攻撃を3

0%軽減

## 月ハイヴ付近へ

永遠と続く暗闇に数万、数億と浮かぶ星。

そんな宇宙に浮かぶ灰色の星、月に向けて進行中だ。

と言つても、現在月周辺で待機中なんだがな。

因みに部隊編成は、こんな感じ。

試験支援艦ヨーツンハイム

- ・マスターユニット：ガンダムOFアマツマガツチ [待]
- ・ガトー専用高機動型ザクⅡ（リーダー）（ガトー） [待]
- ・後期型ザクⅡ（アダムスキー） [待]
- ・後期型ザクⅡ（カリウス） [待]
- ・後期型ザクⅡ（ゲイリー） [待]
- ・偵察型オツゴ（オリヴァー） [出]
- ・オツゴ（フリードリッヒ） [出]
- ・オツゴ（フリデリック） [出]



・オツゴ（ヨセフ）「出」

・VB-6 ケーニツヒモンスター（カナリア）「待」

・RVF-171 ナイトメアプラス（ジユン）「待」

・VF-171 ナイトメアプラス（マルヤマ）「待」

・VF-171 ナイトメアプラス・スナイパー仕様（ジェシカ）「待」

偵察型オツゴとは、俺が考えたモビルポットであり、武装を一切も積んでおらず素敵・通信などの範囲を格段にあげた機体である。

因みにマシンガンを取り付けていた場所に右肩に高性能観測ポッドカメラを取り付け、ミサイルランチャーが取り付けられてあつた左肩には、高感度ディスクレドームが取り付けられている。

現在、そんな改良された偵察型オツゴと改造済みのオツゴを引き連れたオリヴァー・マイ技術中尉にBETAの活動を見てきて貰っている所だ。

レイ「此方、デイズスター。ガトー少佐聞こえますか？」

ガトー「此方、ネメシス1。ガトー少佐です。どうしました？」

レイ「一応、確認します。俺たち『存在せぬ者』は、ポイント増加をさせる為、月にあるハイヴから3000km離れた場所に『エサ』をバラ撒き釣れた『魚』を殲滅し、ポイントを稼ぐ」

ガトー『はい……それにしても、データーを見させて頂きましたが、あの様な生物が存在するとは……』

レイ「いや、少し違う。確かにアイツ等は、生き物様な動きをするが、奴らに思考なんて存在しない機械なんだ」

ガトー『思考がない？』

レイ「まあ、その話は後にして、もし逃げ出そうとする『魚』がいたら、必ず殲滅する事だ」

ガトー『ええ……分かってます。我々の存在を知られては困りますからね』

pppppppp!!

ガトー少佐と通信で話していると通信機に暗号通信が入る。

レイ「偵察部隊のオリヴァー特務中尉からの様です。すみません」

ガトー『構いません』

レイ「此方、ディザスター。夜月 レイ中佐だ」

オリヴァー『此方、シーカー。オリヴァー・マイ特務中尉です』

レイ「報告を聞きたい」

オリヴァー『つは。現在、目標ポイントに設置した「エサ」に引つ掛かった「魚」1

個中隊が食いつこうとしています』

カナリア『どうするんだい？』

レイ「了解した。オリヴァー特務中尉の偵察部隊は、そのまま『エサ』に掛かった『魚』の監視をカナリア中尉の強襲部隊は、我々と共にポイントに向かいオリヴァー特務中尉と合流してくれ」

オリヴァー・カナリア『了解』

レイ「何かしら異変があつたら、直ぐに連絡をくれ。それじゃあ、通信終了」

俺は、脳波感応システムを応用し通信を切る。

レイ「と言う事です。ガトー少佐、聞こえましたね？」

ガトー『ええ。出撃ですね？』

レイ「はい。各機、機体状況を確認後、実弾兵装は自由に選び出撃するぞ」

ガトー『了解!!』

俺は、コクピットにある機体状況管理モニターを見て、確認すると各所全て緑色の無問題。

次は、各種センサーの状況確認・・・無問題。

そのまま、1分後、機体状況を確認し終える。

レイ「此方、ディザスター1。出撃準備完了」

ガトー「此方、ネメシス1。此方も準備完了です」

アダムスキー『ネメシス2。此方もOKです』

カリウス『ネメシス3。準備OKだ』

ゲイリー『こつちもだ』

レイ「了解した。オペレーター。出撃サポートを頼む」

画面モニターの右上に黒人女性のオペレーターが現れた。

ジーン『了解です。全システムオールグリーン。進路クリア。発進どうぞ』

機体射出用リフトの固定アームが外され、機体が宙に浮く。

レイ「了解。デイズスター。ガンダムOFアマツマガツチでるぞ!!」

推進剤無し of 慣性無視に機動で艦外に出ると、それに続いてガトー少佐、アダムスキーと艦内に待機していた全機が艦外に出た。

レイ「全機に到達。これより、俺たちは目標ポイントに向かい『魚』を釣るぞ!!」

『了解!!』

## ポイント収集

### ポイント付近

そこには、漆黒の塗装をされた機体、蒼色の塗装をされた機体とその後ろに待機する緑色の機体が数機と戦闘機が4機いた。

レイ「オリヴァー特務中尉。此方、デイザスター1。目標ポイント付近に到着した」  
自身の機体の通信機を使い、現在『魚』を連れてきているオリヴァー特務中尉に通信を繋げる。

オリヴァー『此方シーカー1。夜月中佐。聞こえますか？』

レイ「ああ。感度良好。問題ない。早速で悪いが、後どれくらいで到着する？」

オリヴァー『現在。中隊規模の『餌』を引き連れポイントCを通過しました。後、10分で視認出来る距離に入ります』

レイ「了解した。ポイントαに着き次第、カナリア中尉に合流し、戦闘準備をしてくれ」

オリヴァー『了解しました』

レイ「通信終了。ガトー少佐。各員に戦闘準備を」

俺は、通信機の周波数をオリヴァー特務中尉の方からガトー少佐の方に声をかけて言う。

ガトー『了解です。アダムスキー、カリウス、ゲイリー。戦闘準備だ』

アダムスキー『少佐。全機、準備できてます』

ガトー『了解した。中佐』

レイ「聞いていた。それじゃあ、各機指名されたポイントで待機だ。特務中尉が到着し次第、戦闘を開始する」

『了解!!』

---

5分後

p p p p p p p p p p

アマツマガツチのカメラが、BETAを引き連れたオリヴァー特務中尉を含むオツゴ小隊を捉え俺の脳に直接映像が見える。

その後ろには、気色悪い事で定番な『餌』改めて『BETA』がゾロゾロと走ってきていた。

確認できるのは、戦車級、要撃級、突撃級、要塞級

それを見て確認した俺は、オープンチャンネルで全機に向けて言う。

レイ「来たか!!全機作戦開始!!」

『了解!!』

そう言うのと待機していたガトー少佐を含むザクII小隊が各自装備していた武装である、120mmマシンガンと240mmバズーカをポイントに来たBETAに向けて一斉発射した。

猛スピードで突撃してくる突撃級のご自慢なモース硬度15度以上の前面装甲も1



20mmの前では、無力であり、装甲を貫通し突撃級を肉塊へと変化させていく。

宇宙からは、ナイトメアプラスによるマイクロミサイルの雨が振り注ぎ、密集している戦車級を肉塊に変えていく。

レイ「さて、俺は、要塞級を頂くかな・・・」

そんな場面をアマツマガツチのコックピットから脳波で直接見ながら、自分の標的を見る。

狙う標的は、鋭くランスの様な脚をした巨大で醜い姿のBETAである要塞級。

数は、たったの5体。だが、5体だからと言って甘く見てはいけない。

その鋭い10本の脚からなる打撃は、要塞級にも勝るとも劣らない上にその脚で踏み付けられたらフェイズシフト装甲を持たない量産機だったら、串刺しになるレベルだ。

だが、幸いなことに、このアマツマガツチには、ヴァリアブルトランスフェイズシフト装甲がある為、串刺しになる事はないが・・・それ相応の衝撃がコックピットに伝わる。

まあ、当たればの話だな。

レイ「それじゃあ、餌に釣れた『魚』を『料理』しますか!!」

俺の脳波に感応しアマツマガツチが、瞬時にMSからMAに変形しメインスラスタ―とサブスラスタ―を吹かし要塞級の一体に近づく。

レイ「そう簡単に近づかせてくれないよな!!」

要塞級に近づくと要塞級の尾らしき部分から鋭くはかぎ爪状の衝角を鞭の様子が現れ、その触手が、俺を墜とさんと追尾して攻撃してくる。

レイ「当たらん!!」

攻撃ポイントを瞬時に予測し、その予測を脳波感応システムを使いアマツマガツチを右にローリング回転させ、触手を回避する。

一回避けたくらいで諦めるわけでもなく、連続で攻撃してくる。

レイ「さらさら!!チンタラしてると死んじまうぞ!!」

攻撃を避けながら、ベクタートラップ内から、120mm大口径機関銃（ザクマシンガンとは別物）を2丁、取り出し要塞級の脚から胴体に向けて引き金を引き、120mm弾をお見舞いする。

動きの遅い要塞級は、高機動で動き回るアマツマガツチから放たれる120mm弾を体中に受ける。

高速で飛来する弾丸が肉に突き刺さり生々しい音を響かせる。

だが、要塞級は、弾丸を受ける中、攻撃の手を緩めず、触手が襲って来る。その攻撃の一つが、アマツマガツチの右手に握っている120mm大口徑機関銃を狙ってきていた。

レイ「遅いんだよ!!」

だが、その攻撃も予測していた俺は、瞬時に狙われた機関銃をベクタートラップ内に仕舞い、超振動周波ビームブレードをビームを発生させていない状態に取り出す。

レイ「先ずは、その鬱陶しい触手からだ!!」

取り出したこの超振動周波ビームブレードは、ガンダムレッドフレームが装備していたガーベラ・ストレートを元に作られており、ビームを発生させず、素の状態で超振動周波を発生させる事で十分な斬れ味を持たせると同時に耐久性などを含めた全てを上げている。そんな状態にビームを纏わせる事で更に斬れ味を上げる近接武器だ。

俺は、一旦上上がり、触手を真後ろに来させ一気に横に回転し機体全体を方向転換

させ裏拳の要領で近接武器であるビームブレードをブレード状態で要塞級の尾から出ている触手を切り落とす。

切り落とされた触手から、体液が出てくるが、それが機体に吹き掛かる前に要塞級の真上に移動し顔面？らしき場所と胴体に左手の機関銃のカートリッジ内の残弾を全て目くらまし替わりにお見舞いする。

カートリッジ内の残弾全てが狙った場所に命中するのを確認し、リロードを行わず、そのままベクタートラップに仕舞う。

機関銃を仕舞った左手をそのまま、右手のビームブレードを持ち両手持ちにして、上段構えのまま、要塞級に近付き………一気に振り下ろした。